多文化関係学会　2019 年度　第 3 回理事会　議事録

日時：2019 年 11 月 17 日（日）8 時～9 時
場所：東京未来大学 B 棟 3 階（B324 講義室）
出席者（敬称略、順不同）15 名：田崎、出口、田中、松井、岡部、金本、内藤、小阪、馬場、宇治谷、小林、河野、松田、山本、武田
欠席者（委任状あり、敬称略、順不同）4 名：湊、畠中、江藤、岡村

1.　報告事項

(1). 事務局報告（事務局長）

会員数報告：会員総数 306 人, 正会員 238 人, シニア会員 4 人, 学生会員 64 人
大学院生の会員より、若手研究者の集まる場の問い合わせが増加している。

(2). 各種委員会報告（各委員会委員長）

- 財務委員会より
  予算案と決算報告が承認されたことを総会で報告が行われる予定である。
- Web 管理・広報委員会より
  特に報告事項なし
- 学会誌編集委員会より
  『多文化関係学』第 16 巻の進捗状況の報告
  - 投稿論文数 9 件（論文 7 件、研究ノート 2 件）のうち不受理 1 件、辞退 1 件、不採択 6 件、採択予定 1 件
  - APA 7th edition が発刊されたが、時期尚早のため、第 17 巻においては 6th edition で編集を継続する方針とする。7th edition の導入に関しては今後検討を進める。
- ニュースレター委員会より
  - 2020 年 2 月発行予定の NL 第 36 号は大会特集号である。担当理事に執筆の依頼がされた。
  - 国立国会図書館オンライン資料収集制度担当より連絡があり、本学会 NL がインターネット発行であるため収集対象となり、納入手続きが完了した。
- 選挙管理委員会より
  来年度に選挙を実施する。
- 地区研究会
  - 北海道・東北地区：特に報告なし
  - 関東地区：特に報告なし
  - 中部・関西地区：前回の研究会は近畿大学で実施。2020 年 3 月の研究会は日本コミュニケーション学会から共催の提案があり、検討する方向である。
  - 中国・四国地区：特になし

- 九州地区 : 2020 年 2 月 29 日（土）に「多文化共生時代の日本語教育を模索する」（於・九州大学西新プラザ）を予定している。

(3). 第 18 回年次大会準備委員会からの報告（大会委員長）

大会の開催状況に関する報告がなされた。

参加登録者（大会前日時点）: 90 名（会員 60 人、非会員 30 人）当日参加者も多数

次回の理事会で、課題（会場費や引き継ぎ等）を協議予定である。

(4). 第 18 回での総会開催の件（副会長）

ランチ総会が開催されることが報告された。

(5). 学術委員会および 20 周年記念

- 第 18 回年次大会で 4 回連続のうち 2 回目のシンポジウムを開催する。趣旨は会員が納得できる本学会の方向性を模索・検討する予定である。
- 特定課題研究は一件あたり、最大 10 万円に増加したが、会員への周知の検討を要する。
- 学術委員より問題提起や提案があるので今後検討する（1. 本学会で考える多文化関係学とは 2. 知見の蓄積の方法 3. 多文化関係学の手法を探る）

(6). 第 17 回年次大会会計報告（事務局長）

前年度大会委員会から次年度大会委員会への資料の送料は、前年度大会費用に含まれる。18 回年次大会委員会に着払いで届いた費用も含めて、修正され、収支報告でも変更されている。

(7). 第 19 回（2020 年）年次大会について（会長）

2021 年に予定されていた近畿大学で開催する方向。委員長は小坂貴志会員、会場校の窓口は出口朋美会員で始動している。大会テーマは「内なる国際化～５メートル以内の多文化共生」である。

(8). その他

特になし

2. 審議事項

(1). 2020 年 3 月中部・関西地区研究委員会開催について（中部・関西地区研究会委員長）

日本コミュニケーション学会との共催、また講師は石黒先生（グラウンデッド・セオリーなど手法）に依頼することが検討されている。会場は名古屋外国語大学の予定。

(2). 若手からの意見収集について（事務局長）

若手からの意見収集することが承認された。その後、提案された意見を元に若手研究会の開催を検討する予定である。

(3). 紀要投稿規定改案について（学会誌編集委員会委員長）

学会誌編集委員会より投稿規定の第 5 条（研究の倫理性）と執筆要領の第 1 条（使用言語）の改定案の説明がなされ、承認された。

(4). ブレインライティングについて（大会委員長）

パネルディスカッション「多文化関係と私のつながり」の登壇者の話を受け、参加型のアクティビティであるブレインライティングについての説明がなされた。終了後、各グループで選ばれた項目を大会 HP に掲載し学会員に共有する予定である。

(5). 基調講演の論文化について（大会委員長）

大会委員長より、基調講演を学会誌に掲載することが提案された。大会の基調講演の論文化については継続審議中である。

以上